

【工夫】町内会役員が担っていた地蔵盆を、実行委員会を作って負担を分散

平成28、30年度に、「地域コミュニティ活性化に向けた地域活動事業助成金」を申請された町内会で、マンション住民も、外孫でも、誰でもウェルカムな地蔵盆を開催されています。いつも明るく朗らかな地蔵盆実行委員会のお二人にお話を伺いました。

◇「とにかく、声かけ」

「なんといっても地蔵盆」と、地蔵盆の話になると話が止まらないHさん。町内会の役とは別に、地蔵盆実行委員会を作り、毎年、2日間にわたって行われる地蔵盆の準備などを担っています。「道で会ったら、とにかく声かけ。地蔵盆よろしく！」とKさん。地蔵盆を開催するために、日々の声かけはもちろん、新しく越して来られた方や若い世代にも少しでも関わっていただけるよう、ささいなことでもお願いして一緒にやっている実感を持っていただくそうです。仲良しグループではなく、同じ町に住む者同士の結束や信頼感を上げられるよう、日常的に細やかな配慮をされています。



◇「子どもがお世話になったから」

そのモチベーションの原点は、「自分の子どももお世話になったから」。「子どもたちの笑顔を見たら、頑張ろうと思える」とお二人。昔から、小学校1年生になった子どもは、町内で一緒に氏神様にご祈祷に出かけるそうです。地蔵盆は、外孫やお友達などもウェルカムで、50名近い子どもたちが参加します。見知らぬ子がいても「どこの子？誰と来たん？」と気軽に声をかけ、また会ったときにあいさつしやすい関係を心がけています。ご高齢の方も、昔からの地蔵盆なので一緒に参加されます。町内を歩いていても「〇〇ちゃん」と声をかけ、何かあったら「どこどこの〇〇さん」とすぐに分かることが、安心感や防犯などにつながっているようです。

◇「昔っからやから」

子どもの時からずっと変わらない気持ちのよいご近所付き合いだそうで、10年ほど前に町内で火事があったときも、助け合いの気持ちが自然にあったとか。近すぎず、程よい距離感で、いざと言うときには助け合えるご近所つきあいは、日々の些細な心遣いがベースになっているようでした。

【S町内会】左京区。設立時期1600年代の両側町。約110世帯のうち、未加入世帯は数軒。町内は10組から成り、組長は輪番で回るが、町内の役員5名（会長、副会長（2）、会計、庶務）は決めたら数年続ける。町内会費は世帯あたり月350円。マンションは管理会社から一括で会費の7割を頂くが、申し出により全額支払われるマンションもある。町内会の会合は近所のお寺で行う。